KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
Centimetres 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

特別
〜5
6052

56-4139

宮城縣図書館

内さらに京都の作者は法懐帯
并発句ともに多くはいれ書あり
ふさしに採よれば中一越ともに出合
座懐帯ものかかるなくうち
すきさしに発句共いろいろ書こ
玉ひに都に都の作者は発句ともに
此座に条のきうりしをしとしみ
子菴より狂子吾縁妹夕桜

[illegible]百韻を書[illegible]
[illegible]を一巻[illegible]
付味こ句へ[illegible]
と[illegible]
[illegible]
句[illegible]
[illegible]
句[illegible]

[illegible]
行へ集[illegible]
者[illegible]
[illegible]
発句[illegible]
[illegible]
[illegible]
と高く[illegible]

格しきたり多く事とゝのひて一とせ
ゝもぎうる作意定まる所とぞ侍れ
あまくてやさしく大角し長して水
霊のたゝりひと賞味ゝゝとゝゝまて
化力うすく功すくして勢くなき
き事し然れとも絶とても初ん
のうる所ゝこゝろぬ所と分別して
御流ゆゝきすし〻當流として景

気附とこゝ六七句十句まて
好り鄙里山家の事ゝ
きしうのとゝゝ
して素気のとゝゝ
りのゝ一句とゝゝ
初とこゝまゝ句他を
へようゝまゝ
ぬ物まゝ

産功とゝゝ次第気

白乃ちかしも岡と感情をこゝろ西
しるべに隨分うちとけて御ものがたり
專一と存候也

十三月下旬　露吹庵　和及

南都
會連中

元禄己巳九月

猿吟百韻

和及

中まろぶ人なつかしや炉ばたに
薄と萩よう野へのりちがひ
初しかの出渚より星ぞふるゆりて
泊ふとうづむ月ぞ長かるく
竹ゑ笛をきくにつれ名しをなまれ

澤路(エキロ)あれ屋どり麦こなんとう
てらくゆと一日雨ぞ降わうう
ちらへて流るゝ瀧の水ちら
ゆを(ウ)人の塵ちうき世ぞ蠱(コヤシ)りて
ちさゆる折や武士の十家(リヨウ)盤
不破の関寝ぐらに星ぞわびみる
常(クサギ)出まりの里ぞ藪の高墻
入あいの月を穴堀る鍬ぞ音

といなあへどもかきるいの欲
みふるひまのつれとづる母はち多
又三伏ち 蓑 兵(カウ) 蕣(ジュン) 敬
ちむを物のなはひちめて
女房持ちの表のいやはよ
花りきて意をうるさの役
掛(クハラ)絡を剥(ハガ)んといつぐたしき
天ひがれをとの野下野や



秋を愛童ありかもの常貴
曲相撲一番はくの手柄ゐて
老りるまで初ち 合 點
南蛮茶呼ゆるを分たま(ナヂ)七の科
ちまふ除ち衣の種をきるを紀
乙松(アトツ)や阿久里(アグリ)し足をちとせて
汚痕(アサキズ)をわで血をつくしこまり
黄昏(タソカレ)の弁藥ち佐よゆぎれり

りの舅（シウト）ゞう蓬（ヨモギフ）生 家
一祭ちか桃乃伏見乃豊後橋
霧そそえくゝ乃伊的重（コンガウ）剛
基（モト）佐（スケ）と留て連寿や望じ身
傾城めつぬ　まふ　おそのいひ
そそ狩こめて新よりあいさまゝ沿
おもあいち所乃みのりちはぎ
ほぐうてうす（二ウ）くそわど縄乃孤

阿闍梨（アザリ）乃方みの一と呼まん
舎人ゆも車乃ぶをちひおきて
竈（カマド）風呂七日宿おはまく
ちぐいくときくまを来ぐ紀ほとす
富士ち常なれ山ち人く
海曇ち日いそぐにとのぢかうう
関おとかりう　腰ち　幾月
須すも所数書ちごん車のうゝ

熊谷なる婦この世後世
高野山づこやもがもさ所
日うらうらく花の色ぞ木
初虹の末みうすぎぬかと
落ちと細しり雪篠まり人
節にて念仏堂の歌とも
華表をとそし中ぬ塚
馬一朝別ひこ行と薄原



枯ちる山を沽り
今春しの翠麻の炉去也
月も名角ゆき明川ち君
獲り見人わ
四ちの雲しあや往生
故郷去豊い去間の樓ちて
心よちる元朝去 俳
春の花咲はく見ん年ちた

墓がはらの小野の坊宮
川ぶしの茶屋金ぶう鉦のくびどころ
照る日はかぶる笠(カサギ)忘れうしひ
三月
いかりくの会者定離人はもとめ
誓ひをゆるせ清水の神
勢ものそらい朔日ばかりの朝精進(シャウジン)
御像(ゾウ)くりたてまつる
祢宜町や風の折く岡(キリ)た鞍

青物市れ立ちの日多いぬ日
両なきり湯壷の道い下駄もも
狗(キツネ)も人のうきれうそう
けてを世いけるくるやや
すすきうちきうきれぬ数(イロ)の根
仕舞やまやおとくに見もあり
染帷子の布引き日
伊保姫のねとぐろゆるう毛の抜く

名

人をゆまぢく茅葉（カウバ）苔

沙まく斑（ハン）貓（メウ）ちを七嘗・雉子

気のきこゑ寄

らや唯貧なる貧とよりやそく

まうといたくもん鑓（ヤリ）先（サキ）

神鳴り耳ゆうとも笑ふなよ

志りの舟志ん豪合志ん

恋（ヒトモシ）の息を秋よ清まましく

畜生（チクシヤウモン）門をハいりふ法の師

ちるる少櫛（スキ）しわやしれ苔育て

皆蘇下をうしく

勾當（コウタウ）ぐ心ぐ杖ひよ

淺瀬よなわぐ志ぐ水音

十六夜の月まで流涙ぞ君ぞ

平志姿と茶枝きん

花のよさ菊（ウ）おかる酒しぐ

ゆうく妻をかくし置家
男ひとり人法師訪と問ふして
長ふ一所を梦さめの語り
ゆむぐを岩本坊不屋とりて
いざ花ゆまん峯の先達
何とつふ俳たちねども呼小島
只うぐひすよ　鳥文　徳

発句

元旦

大海(ヲホウミ)より法ちり初きん一霞　金龍寺　櫻叟

四方の春弔(ワレ)八月長の明はて　和及

餅ちよかちる元ちる松もより　大坂　六翁

梯子板や唯りめてうれうりて　江戸　嵐雪

いくりめを弓水はきん水車　桐葉

弓水やはちこを通(トヲ)る長廊下(ラウカ)　鳥文

ふやまぢ女よりもれぬ門の松　軒柳

梅

女よりて見ふるしハ毒の月夜かな　如泉

南都へゆるもとさ

長池や根い牛房(ゴバウ)して梅の花　竹亭

毒柳いばき階(ハシヒゴ)みの門前　龜林

柳

まぶゆゆぐ鳥の紅ゆ柳かな　心兮

吹ふびよ蜍の居なる柳哉　加別 一笑

ふとゆ来ら風のもとく柳　方寸

蜍

人ぞまぬ女しらるる胡蝶かな　龜林

雨居をとひて

町ゆ出ゆ蜍りまゆ紅ゆ哉　信德

蛙

芭池り生ゆ帝ゆかいづかな　言水

德もすさ家りをとく蛙ぶ　和及

白魚

ちらうをいかるれてけるる　鉄硯

白魚乃併なるゆよれ乃淀　作者不聞

花

花山やゆうてりの出所　我黒

三芳野を継めを花乃巻ぶ　竹亭

河ゑ乃ゆるれ道ゆくり　仝

花ありて犬のうぶめ山ゑ乃　常矩

常矩十三回忌追善句

常牧ゆよりゆまてと花

ひがしを佛ゆうぶ花一枝　和及

櫻

於南都道弘奥行

初櫻いを乃一を乃ちみを　和及

いざ折て人ずさん山櫻　檀林

行しまげ橋(ハシ)うゝ山橋　可求

花人ゝわづとうへん大げら　虎海

遅桜うゝ咲くゝ人ゝ行きし　和及

三月三日

ちわい桃ゝわい押ゝ節句ふ　方山

ちゝ干ゝ流ます酒ゝ水車　言水

見ちゝうゝ代士(カダシ)遅ゝ去ゝ　竹亭

我黒

杉ゝ山ゝ廊(クルハ)ゝ梅ゝ咲ゝ

藤

山茨ゝ牛ゝ嗅(カグ)まて果ゝ　俊見有南

菜花

元禄己巳年生ゝ

王生月ゝ梅ゝ咲ゝ蕭

菴と法ゝて會ゝ

わゝ宿るゆゑ葉の花の咲よりも　和及
久しく花の下に実植ゑうゑ　軒栁
雲雨のこゝろにはたとうきて　静榮
塩木ぬるゝ海士ゆゑ　梅氏
二星のゆるる渚の石よ一ゆきて　虎海
馬しまめてや来りけん蠅　千足
九月や七除月の四ぢ　林虎
大葉とゝぬ七夕市　吻軒

世のけりよ女の役とうきぬさ　法三
佛より餉をとゝぬ盡まで　林鳥
樓榈　うゝく又寢の楼ゆゆ　桃雨
一頃して　略す

法隆寺にいさかりれし
道とゝろひびきあか
とゝろく拝えてこゝに記す

菜の花ゝ雲や煙を落ひゝり　和及

うゝゝゝゝゝゝる沼の水ぶゝ　南都　鉄水

頃去日新り雪とうしもひて　〃　無心

雨やうゝゝゝふ　こケ井ゝゝ　〃　秋獨

沖韋山植去茸もゆゝ　〃　扇計

康去蕈ゝゝて　〃　露水

ひゝゝゝと杉の帛ゝゝて　〃　望景

今の田ゝゝゝゝゝいの芝居ゝ　〃　鶴子

牛ゝゝゝの親しゝゝ和きてのゝゝも　廿人　一桂

未明ゝゝ

暮春

ゝゝゝ賣ゝゝ惜ゝ書の春　郡山　一露

去も去ふ小袖とゝゝ都ふ　是雨

更衣

乃ぞ髪とおもひなるまで裕うれ　風山

夕煙一関忘退善

きいぼさいぼうの洞よ衣うへ　和及

夏月

約うめて牧屋打ち移る月林　言水

松若

むとり素毋ぼうもんのひろ　周也

郭公

ほとゝぎす曙つこゑ九　梅子

ゆかりたにやや山の郭公　夕煙

牧ゑい一時の啼ぬほゝとぎす　和及

啼新や田植つひ終ふ郭公　軒柳

三声ちいもるうふ芋ぬ郭公　松木

傘ゆ忘よ人もとゝ郭公　鞭石

麦　隠室と　心兮

つゞ屋ごろあん川麦胡蝶ふ　大坂　一蟲

夏夜

夜の長や揚屋茶酒の一廻り　琴山

菖蒲

ふく蛙菖蒲もおいわどゆゝ行末　常牧

門裏へも義きそいろめ菖蒲賣　櫻叟

菖蒲

奉る産儀しわまるのやめふ　和及

蛍

屋もそろ〳〵うい長の年蛍ふ　戈九

牛の藁を宇ふい通り行く虻の　静榮

蟬

山城丈方に蝉啼ふる　南都　通元

移秋

茅渟波阜りて

梅雨ふとやそ進き移舟ふ　江戸　芭蕉

蓮

[illegible]や蓮に[illegible]ある心　湖春

清水

[illegible]人なれむ[illegible]清[illegible]　備前　晩翠

涼しいに星のかゝり　龜林

納涼

門涼[illegible]に生れ[illegible]　松濤

夏嵯(ゴケ)数芦橘叶箱[illegible]　桃助

初妹

何[illegible]数[illegible]妹　周也

いとゝ[illegible]流(ヨビ)　龜林

七夕

元禄[illegible]七夕[illegible]

北斗[illegible]龜[illegible]席[illegible]

つ[illegible]

[illegible]

遊星にうつる滝の水　和及

東ちかくすさまじ　荷翠

うゑてとぼそ秋風　竹亭

其二

星逢や片月ゆきぞ天はれ　龜林

ひとうの家ぬぎ橋の夫婦　竹亭

ふの和ぶまぐ沼の蓮　荷翠

其三

七夕の花ちりやすらん　荷翠

新足しゆくあるひとの月　和及

鈴事（スヽノコト）桐撲（コトリツカヒ）のまたぬ　龜林

其四

蒔よ星妹背とたのむ宮あた　竹亭

男いのちうしろ柳ちる岡　龜林

學校（がくこう）の陸（くが）ち徒（かち）づうあめ　和及

人れ気の片原町ちかの　林虎

蕣

朝皃り移ろふ人ぬしを誘ふか　和及

稲妻

いなづまや如月ゆゑの若もえ　櫻叟

稲妻し　諧ふくみる女うれ　信德

いなづまや二ぬまて蓑小袖殿　和及

いなづまのまるかをかくる不破関　荷翠

秋蝶

白めや胡蝶きしゆく蕎麦　鉄水

本こなきし薄の胡蝶あつれ　和及

芭蕉

まもるもの小葉もつれ多囊　千足

萩

弾し植てうひなき萩乃うよ紫　大坂　來山

秋茶屋

はまてみよ茶賣うめ人ふる　如泉

下枝ちれて小高迄ゆく道野哉　釣軒

碪

都もてもやうのき碪うつ　和及

引つ家の伝をおく関はまち　芦秋

町中は寒やきぬるつきの所　作者不聞

月

青面ちかどの嬉しく炉の月　龜林

つりうん山ぶけちく秋の月　貞隆



名月

つゞ恵い盡の月に関よ宇宙の月　和及

折うゝや家の行賞菴の月　仝

重陽

捨ぶ白り菊いとゞきの月　似船

秋夜

水の位音きつく炉の月さめ哉　和及

夢の菴りおもしよ　一

為主ものしりたる
とかきはあで麓よ
ちりちりく
為主ものや弱(じんべ)瓶かりきて秋の菴　原水

初冬
弥乃留主唯竹賞う鎌(カマ)乃音　梅氏
木葉
弥云月ちめ法律の国
金龍寺櫻叟をとひて
深山路いとりきしぬ落葉哉　和及
おもしろきさま
物絶て落葉積りし深山路　一茶蛍

風

白浪を木の葉にたとへ吹かぜ　長年

時雨

すまゝ〻にたゝぬれぬれて夕時雨　和及

武蔵野や四面にたゝる時雨　鉄覩

明星の所をわつきたがるしぐれ　亀林

帰花

あらぬ人　淺黄桜ちりぬる花　林鳥

雪

遠き廉の内ゆゝ見ゆる雪ゆゑ庵　竹亭

衰世を童部の雪車に乗る心　静榮

雪見よい殿さうゆゑ孤なこゝ絡ふ　ちよ

雪の朝掃ひきるて紅梅　吻軒

千鳥

夕〻毫大なる海の寄来る　和及

鷺

鶯見りやらくく京乃色はゝ　櫻叟

鉢敲

隣家まひらきくう鉢敲　靜榮

表初角髪(スミガミ)鉢敲　軒栁

老女ゝ粥(カユ)ゝ鉢敲　法三

業書

黙(モク)孔乃人雑ゝん乃書　芦秋

人乃住かゝ乃所ゝ師走　亀林

ゝ乃書乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ髮　一龍

這一冊を露吹菴和尚法師
南都の門流京人書ならべて
平清玄をもとに亦ゆくすゑを
ちとゆかりをくうきをむつ
つまじ梓りもちて詠諧
雅の業といふ事志かり

庚午孟夏日　　執筆　風葉軒

皇都書林　板行